

弘前資料展示会・講演会を企画して

東亜同文書院大学記念センター 山口恵里子
豊橋研究支援課

愛知大学東亜同文書院大学記念センター／オープン・リサーチ・センターでは、文部科学省の補助金を得て2006年度より5カ年間、全国を回って展示会・講演会を開催していますが、横浜・東京に引き続き、今年は青森県弘前市で7月26・27日にわたり開催しました。

山田良政・純三郎兄弟の菩提寺（貞昌寺）がある弘前において、山田兄弟関係の史資料を展示公開すると共にフォーラムを開催し、町の活性化に協力することを目的にプロジェクト化しました。

3月末、藤田センター長が自ら現地入りし、地元作家に講演の依頼をすると同時に、会場探しを行ない、また青森県教育委員会や新聞社他5団体へ後援のお願いに出向きました。

メンバーは本州北の果ての開催地で、テーマに沿ってどのような企画をすればどれだけの集客が可能か？大学が所蔵する史資料の中で何に興味を抱いてもらえるか？などについて検討を重ねながらポスター・チラシを作成して、情宣活動をしました。

展示物は、パーテーションの寸法や会場レイアウトを勘案したり、個々の展示品を活かせる方法を試行錯誤しながら選択しました。そして、写真を撮りキャプションを加えて展示図録を作成しました。

会場は、弘前駅前市民ホールを両日とも使用し、初日の講演会は会場後方壁面を使用して関連する主な資料を展示し、入り口・ロビーにはイー

ゼルパネルで本学の創成期を紹介したり、記念センター刊行物販売コーナーも設けました。2日目は、パーテーション24枚を使用してホールを大きく3コーナーに分割し、多くのパネルを展示し、ゆったりとした見ばえのする展示室に生まれ変わりました。

最初のコーナーは、「孫文を支えた書院の山田良政・純三郎兄弟」をテーマとし、特に中心となる山田兄弟や孫文の写真をA1パネルに拡大して印象深くしました。掛軸は孫文書の「山田良政先生墓碑」を中心に計16点を準備しました。次のコーナーは、「東亜同文書院から愛知大学へ」をテーマに、特に「書院時代の指導者たち」や学生の「大旅行」をポイントに資料パネル等計31点を選び出し、重厚な東亜同文書院校舎のタペストリーも加えました。最後のコーナーは、愛知大学創成期をパネルで紹介しながら、当記念センター製作のDVD（東亜同文書院から愛知大学の歩みー21世紀はばたく真の国際人の育成）を常時放映して大学広報活動も果たしました。

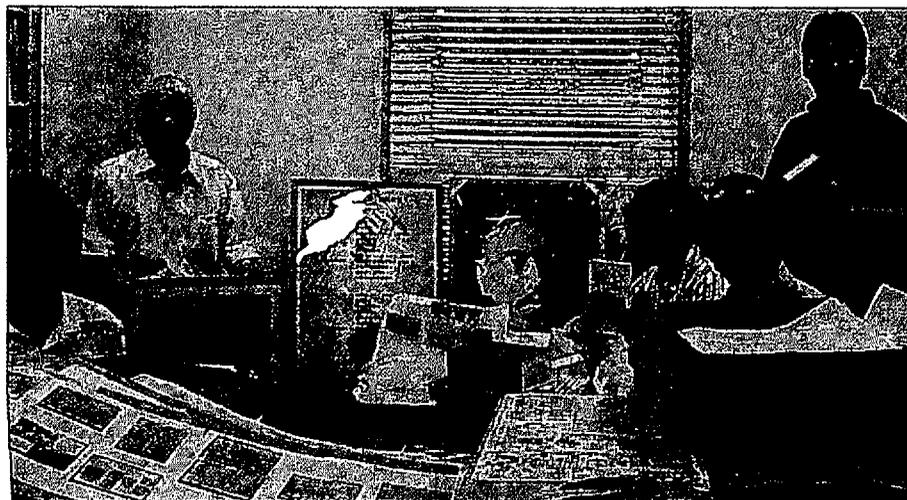
こうした展示物は、参加者メンバーで一つひとつを梱包し、Boxチャーター便に乗せ、現場では搬入搬出から飾り付けまで、作業は大変でした。

岩手県北部地震の2日後の開催でしたが、不安をよそに延べ300名の来場者があり、多くの方に励まされ温かい交流が生まれました。「山田兄弟や孫文の書物を刊行してほしい。」との大きな研究課題もいただきましたが、また機会があれば人

情豊かな街・津軽で開催したい気持ちで終了後には協力団体へ感謝のあいさつ周りをしました。

今回は厳しい予算の折、企画から実施まで出さ

る事は全て手づくりで行なうこと目標に展示会・講演会を実行しましたが、プロジェクトメンバー全員が汗を流しただけの成果を実感しました。



企画中のプロジェクトメンバー